

佐賀大学附属図書館
自己点検・評価報告書
平成 28 年度

平成 29 年 12 月

佐賀大学
学術研究協力部情報図書館課

目 次

I	附属図書館の目標・計画	1
II	附属図書館の概要	3
III	領域別評価	
1	教育支援	4
	(1) 資料の計画的収集	
	(2) 資料の提供・活用	
	(3) 情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）	
	(4) 学外図書館からの文献入手（図書館間相互貸借 ILL:Inter Library Loan）	
	(5) 読書奨励	
	(6) 自学自習環境の整備	
	(7) 広報	
	(8) 評価及び課題	
2	研究支援	10
	(1) 研究用資料の収集	
	(2) 電子ジャーナル	
	(3) 文献等データベース	
	(4) 研究情報・文献情報の電子化	
	(5) 評価及び課題	
3	社会貢献	12
	(1) 市民への情報サービス	
	(2) 公開講座（講演会、展示会）	
	(3) 地域資料の収集	
	(4) 貴重資料の利用	
	(5) 評価及び課題	
4	組織運営	14
	(1) 組織の編成・管理運営	
	(2) 財務	
	(3) 評価及び課題	
5	施設・設備	17
	(1) 施設、設備等の整備状況	
	(2) 施設、設備等の利用状況	
	(3) 評価及び課題	

I 附属図書館の目標・計画

【資料】第3期中期目標期間における部局の計画等

1 第3期中期目標期間（平成28年度～平成33年度）における目標及び計画

附属図書館は、本学の行う教育、研究に関わる学術情報を収集・蓄積し、効率的に提供する。また、学生の自発的な学修・研修を実施するラーニング・コモンズ施設を整備し教育の質的転換を推進すると同時に、学生の就職活動、本学に在籍している外国人留学生及び海外に留学する学生支援などのため、体系的かつ網羅的に図書館資料を収集し、情報ネットワークを整備して、より効果的な学習環境を提供する。さらに、本学の社会貢献のひとつとして、地域に開かれた生涯学習の活動を推進して行く。

(1) 教育に関する目標・計画

【目標】

教育の質的転換を推進するために、学生及び教員の自発的な学修・研修を実施するラーニング・コモンズ施設などを整備し活用する。また、学生の就職活動を支援するため、キャリアセンター等と連携して、関連する図書館資料を整備する（第3期中期計画番号8及び17に該当）。

【計画】

- 1) ラーニング・コモンズの整備・活用を図る。
- 2) 就職活動支援に関する図書を整備する。

(2) 研究に関する目標・計画

【目標】

研究成果の社会への還元に関する具体的方策を講じる（第3期中期計画番号23に該当）。

【計画】

研究成果の社会への発信支援として、本学の研究成果を機関リポジトリに登録して情報発信する。

(3) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した目標・計画

【目標】

教員養成系学部の卒業生に占める教員就職に関する支援を行う（第3期中期計画番号36に該当）。

【計画】

教員を目指す学生の学習を支援するため、教育学部と連携し、教職関連の図書を整備する。

(4) グローバル化に関する目標・計画

【目標】

交換留学生や短期留学生の受入れ及び海外留学派遣者数を増加させるため支援を行う（第3期中期計画番号39及び40に該当）。

【計画】

外国人留学生及び海外留学を支援するため、国際交流推進センターと連携して関連図書を整備する。

(5) 附属病院に関する目標・計画**【目標】**

看護師の教育制度を充実し、地域医療を支える良質な医療人を育成する（第3期中期計画番号47に該当）。

【計画】

看護学継続教育を支援するため、看護学教育研究支援センターと連携して、医学・看護学図書の貸出を試行する。

(6) 経費の抑制に関する目標・計画**【目標】**

人件費以外の経費を抑制するため、光熱水等の使用量を第2期中期目標期間の最終年度より3%削減する（第3期中期計画番号63に該当）。

【計画】

光熱水量等の平成27年度実績を踏まえ、経費削減計画を策定し、管理的経費を削減する。

(7) 法令遵守等に関する目標・計画**【目標】**

大学活動全般、学内規則を含めた法令遵守に関する啓発活動等の取組及び情報の取扱いに重点をおいた情報セキュリティ教育を実施する（第3期中期計画番号71及び72に該当）。

【計画】

- 1) 災害、事件・事故等に備えるため、防災訓練や学習会等を実施する。
- 2) 教職員の情報セキュリティに関する意識の維持向上を図るため、eラーニング講習を受講する。

II 附属図書館の概要

【資料】Ⅱ-1 蔵書数、Ⅱ-2 図書受入冊数、Ⅱ-3 雑誌受入種類数、Ⅲ-1-2 電子書籍導入状況 Ⅲ-2-1 電子ジャーナル導入状況、Ⅲ-2-3 文献等データベース、Ⅲ-5-1 面積・閲覧 座席数・書架収容力

附属図書館は、教育学部（文化教育学部）、芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、農学部がある本庄キャンパスに本館、医学部がある鍋島キャンパスに医学分館を配置する。

（1）施設・設備

本館は、鉄筋4階建てで総面積5,338㎡である。ラーニング・コモンズ、閲覧室、閲覧個室、グループ学習室、マルチメディアコーナー等の利用者用スペースと、会議室、事務室等の管理スペース及び書庫等を有する。1階から3階が利用者用スペースとなっている。利用者用スペースには座席627席を備え、学内LANに接続された端末を75台、及び情報コンセント等、ネットワークを利用した学習環境を整備し、学生及び研究者の学習、研究の能率向上を図るよう配慮している。

本庄キャンパスには本館建物の他に旧館書庫780㎡を有する。

医学分館は、鉄筋2階建てで総面積1,769㎡である。座席192席を備え、利用者用として学内LANに接続された端末62台を配置するとともに、図書等の蔵書構成、配置等について十分に検討し、自学自習が効率よくできるよう配慮している。

両館とも設備・備品として、退館管理（BDS）システム、図書自動貸出返却装置、全館冷暖房設備、エレベータを備えている。

（2）図書館資料

本庄キャンパスでは、図書（視聴覚資料を含む、以下同じ）は、教育研究組織・教育課程に即し、医学・看護学を除いたほぼ全分野にわたる資料592,840冊を所蔵している。内訳は、和書416,531冊、洋書176,309冊である。

雑誌は、人文・社会・自然各分野にわたる国内外の学術雑誌、大学論集、紀要等合わせて9,518種類を所蔵する。また、附属図書館閲覧室に配架の学習用雑誌は、学術雑誌から就職に関わる受験雑誌等まで幅広く収集し、提供している。

医学分館では、図書は、医学・看護学を中心に116,053冊を所蔵している。内訳は、医学・看護学分野の和書69,290冊、洋書46,763冊である。雑誌は、医学・看護学関連雑誌を中心に一般教養雑誌を含め約2,362種を所蔵している。図書・雑誌ともすべて開架書架に配架し、提供している。

また、全学で利用できる電子的資料として、文献等データベース13種及び、主要出版社の電子ジャーナルをはじめとして全10,704種の電子ジャーナル、19,028点の和書・洋書の電子書籍へのアクセスが可能となっている。

Ⅲ 領域別評価

1 教育支援

(1) 資料の計画的収集

【資料】Ⅱ-1 蔵書数、Ⅱ-2 図書受入冊数、Ⅱ-3 雑誌受入種類数、Ⅲ-1-2 電子書籍導入状況、Ⅲ-1-3 電子書籍アクセス数、Ⅲ-1-4 図書除籍冊数

本館

①資料費の確保

教育・学習支援を使命とする附属図書館では、学生用図書、電子情報資料等（以下、学生用資料）の資料費の確保は最も重要な課題の一つである。資料費は法人化直前に大学の経常経費として認定され、法人化後は図書館への基本予算として計上されている。

②学生用資料の選定と収集

学生用資料は、本学教員と図書館職員で構成する附属図書館選書専門委員会で購入計画を立案し、計画的に収集を行っている。

平成 21 年度に受審した機関別認証評価において「学生用図書の一層の充実が望まれる」と指摘されたことを受け、3 年間にわたる図書費の特別配分により整備を進めた。特別配分がなくなった今は、学生リクエストの活用や学生選書の実施、就職支援や留学支援等、関係部署と連携しての選書等、様々なニーズに対応する取り組みを行いながら、学生用図書の整備に努力している。

③シラバス掲載参考書

学習用図書として特に重点的に収集を図る必要がある資料として、シラバスに掲載されている参考書がある。新年度当初にシラバス掲載参考書を利用できる状態にするには前年度内に資料を購入し整理しておく必要があり、教員、学務部の協力によるシラバスの早期登録、シラバス中の図書情報の体系的な抽出により実現している。

平成 28 年度は、参考書の指定があった全科目について発注し、469 冊購入した。

④学生希望図書

学生が図書館で読みたい図書をリクエストできる「学生希望図書制度」を Web システムで運用している。リクエストされた図書は館内で審議を経た後、購入する。図書館利用オリエンテーション等において「学生希望図書制度」について積極的に広報を行っており、平成 28 年度は 166 冊購入した。（後述する図書館サポーターが選書した図書を含む。）

⑤図書館サポーター学生（さらりず）が選書した図書

平成 18 年度から、読書奨励企画として、本館及び医学分館の蔵書構築作業の一部に学生が参加できる図書館サポーター学生グループを組織し、「学生選書ツアー」を実施している。選書し購入した図書は、図書館入口に近い場所に特設コーナーを設置して配架している。図書館の中でも人気のコーナーになっており、貸出利用も多い。

⑥佐賀大学の年度計画実施に関連する図書の収集

平成 28 年度は、学生の就職活動支援のため、キャリアセンターと連携して就職活動に関連する図書 49 冊、教育学部生を主とする教職を目指す学生のため、教育学部と連携して教職に関連する図書 111 冊、本学に留学してくる外国人留学生支援のため及び本学学生の海外留学支援のため、国際交流推進センターと連携して関連する図書を 103 冊整備した。

⑦電子書籍

平成 21 年度から電子書籍の整備を始め、平成 24 年度からは学生の自学自習支援を整備方針の中心に据え、自宅等からの利用やラーニング・コモンズでの利用を考慮して、和書の辞書事典類、入門書等を中心にした整備を行っている。

平成 26 年度は利用促進のため、図書館 Web サイトに電子ブック専用ページを作成するとともに、和書の電子ブックの蔵書検索ができるように目録を整備した。平成 28 年度は教員と連携の上、授業関連図書や就職支援図書の整備を行い、チラシやホームページ等で広報を行った。

⑧資料の除籍

研究室からの返却図書の増加により書架の狭隘化が進んでいるため、計画的に除籍を進めている。平成 28 年度は 8,902 冊の除籍を行った。また、重複図書以外の除籍を進めるために「佐賀大学附属図書館図書除籍要領」の改訂を行った。

医学分館

医学分館における研究用及び教育用の図書・雑誌の整備は、医学部教員で構成される医学分館運営委員会で検討を行っている。医学部のシラバスに掲載された参考書はすべて収集している。また医学部教員等から推薦された図書を委員会で選定し、計画的・系統的に収集している。平成 28 年度は 380 点の推薦があり、学生の自学自習用に広く利用されている。

また、医学・看護学という専門の性格上、常に最新版の資料を収集するよう留意している。所蔵する専門図書、参考書の改版・新版等を積極的に収集するとともに、改版等や年月の経過により利用価値を減じた図書を除籍し、書架の活性化に努めている。さらに、電子書籍の整備にも積極的に取り組んでいる。

(2) 資料の提供・活用

**【資料】Ⅲ-1-1 利用対象者数、Ⅲ-1-5 開館時間、Ⅲ-1-6 年間開館日数等、Ⅲ-1-7 入館者数
Ⅲ-1-8 貸出条件、Ⅲ-1-9 館外貸出状況**

1) 開館時間等

本館

①開館時間

利用状況の調査や学生の利用アンケートに基づき開館時間の最適化を図り、資料Ⅲ-1-5 のとおり開館している。

②館内飲食

パソコン・視聴覚機器を設置している席を除き、密封できる容器に入った飲み物の飲用を認めている。

医学分館

①開館時間

利用状況の調査や学生の利用アンケートに基づき開館時間の最適化を図り、資料Ⅲ-1-5 のとおり開館している。

磁気カードによる入館方式により 24 時間何時でも図書館利用は可能であったが、利用学生による図書館マナー違反が多発したため、また、防犯上・危機管理の点からの判断も加え、平成 25 年度末をもって 24 時間開館を停止した。平成 26 年度からは、朝 6 時から 8 時 30 分までの早朝開館を試行し、平成 28 年度から本運用している。また、学生の多くが実習後の夜間開館時間の延長

を要望したため、運営委員会等で検討した結果、平成 28 年 8 月 26 日に入館方式を磁気カードから IC カード対応の扉錠システムへ改修設置し、平成 28 年 10 月 11 日から平日限定で夜間の無人開館（21 時 00 分から 23 時 30 分）を試行で運用している。

②館内飲食

本館と同条件で認めている。

③看護学教育研究支援センターとの連携

平成 28 年度の年度計画の取り組みとして、看護学教育研究支援センター所属の看護師（60 名）に対して、指導教員と連携して利用者登録の申請手続きを案内し、医学・看護学の専門書の貸出及び文献複写取寄せサービスの試行を行い、利用者登録数 29 名、専門書貸出し 7 冊、文献複写取寄せ 5 件のサービスを行った。

2) 貸出条件等

本館

利用状況の調査や学生の利用アンケートに基づき貸出条件等の最適化を図り、資料Ⅲ-1-8 のとおり運用している。

医学分館

利用状況の調査や学生の利用アンケートに基づき貸出条件等の最適化を図り、資料Ⅲ-1-8 のとおり運用している。

3) 入館者数・貸出冊数

本館

入館者数は平成 26 年度以降減少傾向にある。平成 27 年度は改修工事に伴う臨時休館により開館日数が少ないために減少幅が大きいと思われたが、平成 28 年度も引き続き減少している。

貸出冊数は平成 26 年度から減少傾向にあり、平成 28 年度は減少幅が拡大している。

医学分館

平成 25 年度末に 24 時間無人開館を中止したことにより平成 26 年度の入館者数は減少したが、平成 27 年度は早朝開館試行の効果で増加に転じた。平成 28 年度は前年度比で約 2 割減少している。

貸出冊数は平成 26 年度以降増加傾向にある。

(3) 情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）

【資料】Ⅲ-1-10 オリエンテーション実績（本館）

本館

毎年 4 月中旬から 5 月末を中心に、授業担当教員の依頼により指定された授業時間を使用して「図書館オリエンテーション」を行っている。初級コースと中級コースを用意しており、初級コースは基本的な図書館の利用案内、中級コースは電子ジャーナルや文献データベース等の利用方法等の説明を行ってきた。平成 28 年度は、初級コースをアクティブ・ラーニング（能動的学修）の手法を取り入れた内容に改め実施した。また、中級コースでは従来の内容に加え、教員の要望

に応え、テーマを設定し文献や新聞記事を調査するオリエンテーションを実施した。

医学分館

毎年4月、医学部の新入学生（医学科、看護科、編入生、大学院修士課程学生）と新採用看護職員（本学卒業生を除く）を対象に「図書館オリエンテーション」を行っている。新入生に対しては担当教員の協力により情報基礎演習などの授業時間を利用して行っている。大学院博士課程の学生を除いてほぼ全員が受講している。

（４）学外図書館からの文献入手（図書館間相互貸借 ILL : Inter Library Loan）

【資料】Ⅲ-1-11 図書館間相互貸借冊数、Ⅲ-1-12 図書館間の文献複写件数

本学は国立情報学研究所のNACSIS-ILLシステムを利用しているが、同システムの報告では国立大学全体で利用件数が減少している。これは各国立大学が電子ジャーナル・パッケージを導入したために、各大学で読むことのできるタイトル数が飛躍的に増えたことによる影響と考えられる。本学においても、文献複写や図書の貸借件数が依頼、受託とも減少傾向にある。

しかしながら、世界的な発表文献数の増加も手伝い、入手の難しい文献についての取り寄せ依頼の割合が増えているため、また、冊子の所蔵調査に留まらず、電子ジャーナルとして公開されていないか調査を行う必要があるため、処理件数の減少は業務量の減少には直結していない。

（５）読書奨励

1) 図書館サポーター学生（さらりーず）の活動

本学では、平成18年度から、学生選書委員の学生を公募し、選書を中心とした読書奨励の活動を行ってきた。平成27年度には、名称を「学生選書委員」から「図書館サポーター（さらりーず）」へ変更し、従来の選書活動を継続しつつ、読書奨励を目的とした図書館活動を企画・実行した。

平成28年度はビブリオバトルを8回開催した。多くの学生の目に触れるよう大学食堂前と図書館のエントランスホールを開催場所とし、さらりーず以外の学生等を交えて開催することができた。

また、図書館サービス向上のため申請・採択された教育改善支援経費で学生の図書館利用促進を目的とした図書館脱出ゲーム（館内施設、図書資料等を自ら探索しながら謎を解く体験型イベント）を職員との協働で実施した。

（６）自学自習環境の整備

【資料】Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力、Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数 Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース、Ⅲ-5-4 グループ学習室の設備

本館

利用者の多様な学習スタイルに対応するため、グループ学習室5室、閲覧個室4室、マルチメディアコーナーを設置している。また、総合情報基盤センター内演習室と同じ環境で利用できる利用者用端末を58台、閲覧検索専用端末を17台設置している。

平成27年度に1階フロアのほぼ全面をアクティブ・ラーニングが可能な空間へ改修し、ラーニング・コモンズとして整備を行った。平成28年度にはラーニング・コモンズの環境整備について教員と意見交換を行い、連携してサインの改修を行った。また、ラーニング・コモンズの利用法について、学生にアンケートを実施し意見を聴取した。さらに、ラーニング・コモンズを講義や

教育・学術研究を目的とした研修やイベント等で利用できるよう利用規則を整備した。

なお、図書館前に飲食可能なスペースを設け、学生や職員の憩いの場やラーニング・コモンズとの繋がりを持たせた空間として、ウッドデッキやベンチ・テーブル等を備えたテラスの整備を行った。

資料配架の点では、利用者の声を受け、貸出利用の多い語学学習用図書専用コーナーを設置するなどの改善を行っている。

医学分館

利用者の多様な学習スタイルに対応するため、ビデオ・スライド室2室、LL室、多目的学習室を設置している。多目的学習室には可動式の机・椅子を配置し、ラーニング・コモンズとして活用できるように整備している。また、総合情報基盤センター内演習室と同じ環境で利用できる利用者用端末を62台設置している。

平成28年度には、10月から夜間開館（21:00～23:30）を試行するにあたり、セキュリティ対策改善のため、緊急通報ボタンの設置と防犯カメラの増設を行った。

(7) 広報

【資料】Ⅲ-1-13 図書館 Web ページのアクセス数

1) Web サイト

図書館 Web サイトを開設して、図書館利用に関する各種案内、利用者用オンライン蔵書目録（OPAC：Online Public Access Catalog）等のサービスを行っており、サイトの利用状況を把握し改善に役立てられるようにアクセス解析の仕組みを取り入れている。図書館 Web サイトへのデバイス毎のアクセス割合では、PC 以外（モバイル）からのアクセスが年々増加しており、平成28年度は全体の37%を占めている。次期の図書館システム改修時期に合わせ、PC 以外（モバイル）のデバイスに対応した Web サイトを構築する予定である。

2) 広報誌

利用統計や図書館の活動報告等の広報・記録媒体として図書館報「ひかり野」を年1回刊行している。また、学生をターゲットにした情報誌「さらり」を年1回発行している。

3) 電子メールの配信等

教職員向けに講演会の開催案内、データベース・トライアルの案内、臨時休館等、図書館サービスの案内を電子メールにより配信している。平成28年度は学生向けに、学生ポータルシステムを使って電子メールの配信や、お知らせの掲示を行った。

4) マスメディアの利用

市民に対する図書館利用の広報活動として、附属図書館の様々な企画について地元メディアを中心に掲載・放送を要請するとともに取材を積極的に受け入れている。

5) マスコットキャラクター

利用者に図書館を身近に感じてもらうことを目的に、佐賀大学内に生息する野鳥であるカササギをモチーフに作成したキャラクター（「らいぶくん」と「らりいちゃん」）を制作した。利用者に配布する情報誌「さらり」、葉やブックカバーにプリントされるかたちで活躍している。

6) SNS

ツイッターを利用し、新刊本の入荷、資料の配架案内、イベントなどの情報を発信している。また台風による臨時閉館など緊急情報を広く周知する場合にもツイッターで発信している。

(8) 評価及び課題

1) 評価する点

・資料の計画的収集

教員と図書館職員で構成された附属図書館選書専門委員会による審議に基づき、教員による推薦や図書館推薦、学生リクエスト等、多様な視点からの選書を行うとともに、年度計画に基づいて就職支援、外国人留学生及び海外派遣学生を支援する図書等の選書を関係部署と連携して行っており、限られた予算内で様々なニーズに対応した資料を整備していることは評価できる。

・電子書籍

教員との連携の上、授業関連図書や就職支援図書の整備を行い、広報を行ったことは評価できる。

・資料の提供・活用

看護学教育研究支援センター所属の看護師に医学・看護学の専門書の貸出及び文献複写取寄せサービスを行ったことは、地域医療を支える良質な医療人育成に繋がるものとして評価できる。

・情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）

初級コースの方法をアクティブ・ラーニング（能動的学習）の手法を取り入れた内容に改めて実施し、学生から概ね好評を得ており、効果的な取組であったと判断できる。なお、講師担当が特定の職員に偏らないよう配慮し、業務負担の分散を図った。中級コースは、件数は少ないものの教員の要望に応え、テーマを設定して文献や新聞記事を調査するオリエンテーションを実施できたことも評価できる。

・読書奨励

ビブリオバトル、図書館脱出ゲーム（館内施設、図書資料等を自ら探索しながら謎を解く体験型イベント）を開催した。図書館脱出ゲームには図書資料の利用に関する設問もあり、読書奨励の一環としても位置付けることができる。学生への利用促進に向けて、これらのイベントを開催したことは評価できる。

・自学自習環境の整備

ラーニング・コモンズ的环境整備について教員と意見交換を行い、連携して改修後のラーニング・コモンズに対応したサインを整備したことは評価できる。また、ラーニング・コモンズの利用法について学生にアンケートを実施し意見を聴取したこと、ラーニング・コモンズを講義や教育・学術研究を目的とした研修やイベント等で利用できるよう規則を整備したことは評価できる。

・広報

SNS を使い積極的に図書館の様々な情報を発信したことや、学生への広報を強化するために、学生ポータルシステムを使って電子メールの配信やお知らせの掲示を行ったこと等、広報に努めた点は評価できる。

2) 課題

・入館者数・貸出冊数

本館・医学分館の入館者数の減少、本館の貸出冊数の減少について、調査と対策が必要である。

2 研究支援

(1) 研究用資料の収集

図書、学術雑誌その他の教育研究上必要な資料は附属図書館長の管理下に置き、附属図書館、学部、センター等に配置している。

資料の有効利用のため、附属図書館では図書、学術雑誌、電子ジャーナル等すべての資料を包含した蔵書データベースを維持管理し、所蔵・配置等の最新情報を Web 上で公開して利用の便を図っている。

本庄キャンパスの図書配置割合は、附属図書館約 70%、部局等約 30%である。学術雑誌は、附属図書館に農学・理工系学術雑誌を集中的に配架し、利用に供している。一部の学部等では、学部や学科等の単位で図書資料室を置き、専門領域に関する図書・雑誌をはじめ国内外の大学論集・紀要等を収集配架している。

鍋島キャンパスでは、旧医科大学時代から全図書、全雑誌を医学分館に集中配架し、教員、学生・院生の研究及び教育に供している。

(2) 電子ジャーナル

【資料】Ⅲ-2-1 電子ジャーナル導入状況、Ⅲ-2-2 電子ジャーナルアクセス数

平成 27 年度の附属図書館運営委員会、附属図書館電子ジャーナル及び文献データベース検討専門委員会で、平成 28 年度から 2 年間に導入する電子ジャーナルを決定している。平成 28 年度はワイリー社電子ジャーナルに替えてエブスコ社電子ジャーナルを導入することにより経費削減を行い、対象となる電子ジャーナル等を中央経費の予算金額内で導入することができた。

平成 29 年 3 月に、平成 30 年度以降の導入方針を検討するための附属図書館電子ジャーナル等検討専門委員会の設置を決定した。

(3) 文献等データベース

【資料】Ⅲ-2-3 文献等データベースサービス

Ⅲ-2-4 文献等データベースのトライアル及び説明会開催状況

平成 27 年度の附属図書館運営委員会、附属図書館電子ジャーナル及び文献データベース検討専門委員会で、エルゼビア社の引用文献データベース（スコープス）を平成 28 年度から 2 年間導入することを決定している。ほかの文献等データベースは附属図書館選書専門委員会の了承を経て、前年度から継続導入している。

平成 29 年 3 月に、平成 30 年度以降の導入方針を検討するための附属図書館電子ジャーナル等検討専門委員会の設置を決定した。

(4) 研究情報・文献情報の電子化

【資料】Ⅲ-2-5 佐賀大学機関リポジトリ登録数及び閲覧数

「佐賀大学機関リポジトリ」は紀要論文、博士論文を主として収集している。紀要論文の多くは、登録時の著作権処理について各部局との交渉を進め、包括許諾を得、刊行のたびに著作権処理をすることなく登録可能である。

(5) 評価及び課題

1) 評価する点

・電子ジャーナル

平成 29 年 3 月に、平成 30 年度以降の導入方針を検討するために附属図書館電子ジャーナル等検討専門委員会の設置を決定したことは評価できる。

・文献等データベース

平成 29 年 3 月に、平成 30 年度以降の導入方針を検討するために附属図書館電子ジャーナル等検討専門委員会の設置を決定したことは評価できる。

2) 課題

・電子ジャーナル

平成 30 年度以降の導入方針を検討する必要がある。

・文献等データベース

平成 30 年度以降の導入方針を検討する必要がある。

・研究情報・文献情報の電子化

紀要論文、博士論文だけでなく学会誌論文や商業誌論文についても機関リポジトリへの登録を進めるため、学部等に協力依頼を行う等、教員への周知を図っていく必要がある。

3 社会貢献

(1) 市民への情報サービス

【資料】Ⅲ-3-1 市民への貸出状況

1) 閲覧・貸出サービス

市民への閲覧・貸出サービスは、本館、分館ともに年齢制限や居住地制限なしで実施している。市民への資料貸出は、本館は館内資料のみ、医学分館は一般教養関係資料のみを対象に貸出を実施している。

2) 文献複写サービス

本館にはプリペイドカード式複写機及びコイン式複写機、分館にはコイン式複写機を導入しており、著作権の範囲内で複写サービスを行っている。

3) 検索サービス

本館では、一般市民も利用できる端末を13台設置している。医学分館では、館内設置の端末2台で蔵書検索や情報検索が利用できる。

本館、分館ともに利用者登録を行い、端末の利用申請を行うことにより、情報検索等を目的とした端末利用が可能である。

4) 施設利用

本館では、学生教職員の利用に支障のない範囲でグループ学習室も利用できるようにしている。

5) 佐賀県内図書館等との文献複写・相互貸借サービス

本館・医学分館ともに公共図書館等からの依頼に応じ、文献複写・相互貸借サービスを行っている。医学分館は近隣の病院図書室等からの依頼にも応じている。

相互貸借は『佐賀県公共図書館と佐賀県大学図書館間の相互貸借規程』に基づき運用している。

6) 佐賀県内図書館横断検索システム

佐賀県立図書館、県内の市町村立図書館及び県内の大学図書館の所蔵図書を横断的に検索できる佐賀県内図書館横断検索システムに参加し、県内の図書館と一体となった地域への蔵書検索サービスの提供を行っている。

(2) 公開講座(講演会、展示会)

【資料】Ⅲ-3-2 図書館月間講演会 Ⅲ-3-3 図書館月間展示会

附属図書館では、市民に生涯学習の場を提供することを主目的として、毎年11月を「図書館月間」と称して、講演会、貴重資料展示等を行っている。

市民への広報は、マスコミへの情報提供、県内の公共図書館やテーマに合致する関係機関等へのポスター貼付・チラシ配布による案内の依頼、過去の講演会参加者への案内文書の送付等で行っている。

1) 講演会

平成28年度は、前年度の参加者アンケートに基づき「佐賀大学生まれの食品を語る」のテーマで講演会を3回開催した。

2) 資料展示

佐賀大学で研究・開発した食品から生まれた製品、関連資料等、テーマに沿った展示を行った。

(3) 地域資料の収集

【資料】Ⅲ-3-4 附属図書館所蔵コレクション

地域学歴史文化研究センターや総合情報基盤センターと連携しながら、小城鍋島文庫資料や市場直次郎コレクションの電子化を行い、ホームページで公開している。

(4) 貴重資料の利用

【資料】Ⅲ-3-5 貴重資料の利用

毎年、地域学歴史文化研究センターと佐賀県小城市教育委員会の共催で開催される企画展等に貴重資料を貸し出している。

平成 28 年度は、以下のとおり貴重資料の提供を行った。

- ・地域学歴史文化研究センター主催の「幕末維新期の小城」展に、小城鍋島文庫の資料を貸し出した。
- ・小城市教育委員会主催の「花守と介次郎」展に、市場直次郎コレクション、小城鍋島文庫の資料を貸し出した。

(5) 評価及び課題

1) 評価する点

・市民への情報サービス

本館、医学分館ともに市民への閲覧・貸出サービスを年齢や居住地制限なしで実施していることは評価できる。また、県内図書館間の相互貸借システムや横断検索システムに参画することにより市民へのサービスを行っていることは評価できる。

・公開講座(セミナー、講演会、展示会)

地域住民の生涯学習の場として「図書館月間」を毎年実施しており、平成 28 年度は、前年度の参加者アンケートに基づいたテーマによる講演会を実施したことは評価できる。

2) 課題

・貴重資料の利用

所蔵コレクションの利活用を進めるため、地域学歴史文化研究センター等、学内外の研究施設・研究機関等へ協力を仰ぎ、貴重資料についての識見を持つ職員育成を速やかに行う必要がある。

4 組織運営

(1) 組織の編成・管理運営

【資料】Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図

1) 館長・副館長

附属図書館は、平成 28 年 4 月に現在の館長、副館長制で諸般の課題解決に当たることとした。

図書館長は、附属図書館の業務を掌理し、附属図書館に設置した各種委員会の委員長として審議の取り纏めを行うとともに、学内の教育研究評議会等の委員として大学の管理運営に参画している。

2) 運営委員会

①附属図書館運営委員会

平成 16 年 4 月の法人化後、佐賀大学図書館規則第 5 条第 1 項の規定に基づき、佐賀大学附属図書館運営委員会を設置した。医学分館には、佐賀大学図書館規則第 6 条第 2 項に基づき附属図書館医学分館運営委員会を設置した。

佐賀大学附属図書館運営委員会は、附属図書館の運営方針、諸規程の制定・改廃、予算等に関する重要事項を審議する組織で、附属図書館長（委員長）、副館長、及び各学部から選出された教員 6 人、総合情報基盤センター長、全学教育機構副機構長、学術研究協力部長の合計 11 人で構成されている。

また、附属図書館運営委員会の下に、附属図書館運営委員会から付託された事項の審議を行う専門委員会を設置している。

②附属図書館医学分館運営委員会

附属図書館医学分館運営委員会は医学分館の運営、諸規程の制定・改廃、予算等に関する事項を審議する組織で、副館長、医学部選出の附属図書館運営委員、医学部等鍋島地区の教員 4 人の合計 6 人で構成されている。

3) 専門委員会

①選書専門委員会

選書専門委員会は蔵書整備、学生用図書の収集、その他の図書館資料の選定収集に関することを掌る。

②貴重資料・地域貢献専門委員会

貴重資料・地域貢献専門委員会は、附属図書館所蔵の貴重資料の保存・公開・展示等及び附属図書館の地域貢献事業に関することを掌る。

③評価専門委員会

附属図書館の自己評価、中期目標・中期計画評価及び認証評価等に関することを掌る。

④電子ジャーナル等検討専門委員会

電子ジャーナル及び文献データベースの契約内容、経費負担の在り方等に関することを掌る。

4) 事務組織

【資料】Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図 Ⅲ-4-2 附属図書館職員数

附属図書館の事務組織体制は、法人化後、人件費等管理運営経費の抑制及び効率的な大学運営による事務組織再編等により、平成 28 年 4 月現在では、情報図書館課長、副課長、総務主担当、図書・雑誌主担当、利用サービス主担当及び医学分館主担当の体制となっている。

5) 事務処理の効率化

研究用資料の購入依頼受付を Web ベースのシステムで行い図書館システムにデータとして取り込み、購入依頼受付から発注処理、発注状況の管理等を合理化している。また研究用資料の購入依頼時に必要となる財源の管理を、財務会計システムと図書館システムを連携させることにより効率化している。

また、一時期に大量発注する資料は、目録データ入力と図書 ID ラベル貼付等を済ませた状態で納品させて、図書館での整理業務の効率化と整理期間の迅速化を実現している。さらに、他大学の紀要論文のうち、本文が機関リポジトリ及び CiNii で公開されているものは保存せず、書架狭隘化への対応及び業務の削減を図っている。

6) 職員研修

【資料】Ⅲ-4-3 職員研修状況

職員研修について、従来は常勤職員のみを受講対象としていたが、現在は非常勤職員にも参加機会を提供している。

平成 28 年度は職員研修のあり方について検討を行い、県内図書館で実施されている研修に積極的に参加することを決定した。

(2) 財務

1) 予算

【資料】Ⅲ-4-4 図書館経費 Ⅲ-4-5 図書館資料費

法人化後は毎年大学運営経費が 1%削減されており、業務効率化による人件費削減、資料購入時の契約方法の見直しによる値引き率の拡大、事務用品、光熱水量費等の節約など、学生用図書購入等に必要な資料費への影響を抑える努力をしている。

平成 28 年度の配当額は、一般運営経費 72,092 千円、学長経費(電子ジャーナル経費)50,000 千円であった。電子ジャーナル購入経費は、学長経費のうちの「中期計画実行経費」から必要な額を確保するという学内合意に基づくものであったが、平成 22 年度から学長経費の上限が 50,000 千円と定められ、不足分は間接経費から補填されることとなっている。

本館

平成 28 年度の当初配分は、50,367 千円である。この中から図書館維持費として 35,342 千円、図書購入費として 15,025 千円を充てた。また、電子ジャーナルの不足分として、科学研究費補助金等の間接経費から 25,000 千円の補填額があった。

なお、上記以外にラーニング・コモンズ整備を含む図書館機能・環境への充実事業費として 10,744 千円、教育改善支援経費として 200 千円の追加配分があった。

医学分館

平成 28 年度の当初配分額は、21,725 千円である。この中から図書館維持費として 15,725 千円、図書購入費として 6,000 千円を充てた。

なお、医学分館は、法人化時の合意に基づき医学部及び附属病院からも別途図書購入費の配分を受けている。

2) 決算

【資料】Ⅲ-4-4 図書館経費 Ⅲ-4-5 図書館資料費

本館

支出内容を精査し、適切に予算を執行した。

医学分館

支出内容を精査し、適切に予算を執行した。

10月からの平日を限定として夜間開館（21:00～23:30）を試行するにあたり、セキュリティ対策改善のため、平成28年度のみ措置として図書購入予定費の一部を緊急通報ボタンの設置と防犯カメラの増設に補填した。

（3）評価及び課題

1) 評価する点

・組織の編成・管理運営

常勤職員のみでなく、非常勤職員にも職員研修への参加機会を提供していることは評価できる。また、研修のあり方について検討を行い、県内図書館の研修に積極的に参加することを決定したことは評価できる。

・財務

限られた予算の中で、教員や関係部署と連携しての選書等、様々なニーズに対応する取り組みを行いながら図書の整備を行ったことは評価できる。

また、図書館サービス向上のため教育改善支援経費に申請し採択されたことは評価できる。

5 施設・設備

(1) 施設・設備の整備状況

1) 施設・設備

**【資料】 Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力、Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数
Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース、Ⅲ-5-4 グループ学習室の設備**

図書館総面積は本館 5,338 m²、旧館 780 m²、医学分館 1,769 m² 合計 7,887 m²である。

閲覧座席数は本館 627 席、医学分館 192 席、合計 819 席である。本館（平成元年 3 月竣工）、医学分館（昭和 55 年 3 月竣工）とも竣工後建物及び設備の増築、大規模改修は行っていないが、ともに書架スペース以外の閲覧スペースを利用しやすく、明るい場所に置くなど基本設計において利用者への配慮を行っている。

また、利用者に快適な環境を提供するため、夏季の冷房、冬季の暖房運転の維持と設備、物品の充実を図っている。また全館を徹底した清掃を行い、快適な学習環境を提供することに努めている。

安全面では、本館、医学分館とも館内の要所に防犯カメラを設置している。防犯カメラは附属図書館運営委員会が定めた「佐賀大学附属図書館防犯カメラ運用内規」に基づいて運用している。なお、医学分館では、平成 28 年 10 月 11 日から、平日限定で夜間開館（21:00～23:30）を試行することとしたため、セキュリティ対策として緊急通報ボタンの設置と防犯カメラの増設を行った。

バリアフリー面では、本館・医学分館ともに車椅子対応のためのスロープ及びトイレを設置し、エレベータにはマルチビームドアセンサーを設置している。また、日本語に不慣れな利用者のために、館内サインに日本語と英語を併記し、一部にはピクトサインを採用している。

本館では、平成 28 年度に、教員と連携して前年度に改修工事を行ったラーニング・コモンズのサインの改修を行った。

学習のための設備については、p. 7 「教育支援（6）自学自習環境の整備」に記述した。

2) 書架・書庫

【資料】 Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力

本館は平成元年の竣工以降、増築や大幅な書架の増設は実施していないが、平成 23 年度に 2 階の書庫を集密書架へ改修して 2 階書庫の収容力を増加させた。

医学分館も看護学科の新設に対応した増築などは実施していないが、平成 23 年度に 2 階の集密書架の耐震機能を施すことができた。

本館、医学分館ともに収容力の不足は深刻な問題である。本館では配架できない図書資料を箱詰めにしており、教育・研究を支援する上でかなり支障をきたしているうえ、防災上からも危険であることから、配架スペースの確保のため、計画的な除籍を実施している。

(2) 施設、設備等の利用状況

**【資料】 Ⅲ-5-5 各室使用状況（本館）、Ⅲ-5-6 グループ学習スペース及びグループ学習室 5
入室状況（本館）、Ⅲ-5-7 会議室利用状況（本館）**

1) 利用者用施設・設備

本館

施設・設備等の利用状況を調査した。調査の結果、グループ学習室の利用が減少しており、その一因として施設・設備等の広報不足が考えられたため、学生の図書館利用促進を目的とした図書館脱出ゲーム（館内施設、図書資料等を自ら探索しながら謎を解く体験型イベント）において、施設・設備等の広報を行った。

2) その他の施設・設備

・会議室（本館4階）

本館の会議室は、本庄キャンパスのほぼ中心に位置し、収容人数が60人で使いやすい規模の部屋であるため、学内の各種委員会や学部主催の公開講座等で利用されている。

(3) 評価及び課題

1) 評価する点

・施設、設備等の整備状況

医学分館において、セキュリティ対策として緊急通報ボタンの設置と防犯カメラの増設を行ったことは評価できる。

・施設、設備等の利用状況

施設・設備等の利用状況を調査し、学生の図書館利用促進を目的とした図書館脱出ゲーム（館内施設、図書資料等を自ら探索しながら謎を解く体験型イベント）において、施設・設備等の広報を行ったことは評価できる。

資料

Ⅱ 概要

Ⅱ-1 蔵書数

① 図書

3月31日現在 (単位:冊)

年度	本館			医学分館			合計
	和	洋	計	和	洋	計	
23	421,215	175,391	596,606	66,427	45,400	111,827	708,433
24	416,024	175,490	591,514	67,245	45,916	113,161	704,675
25	416,543	176,443	592,986	68,917	46,385	115,302	708,288
26	417,698	177,125	594,823	69,706	46,316	116,022	710,845
27	421,356	177,487	598,843	71,195	46,683	117,878	716,721
28	416,531	176,309	592,840	69,290	46,763	116,053	708,893

【参考】所蔵図書冊数 (『平成28年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

国立大学	大学	和図書(冊)	洋図書(冊)	点字(種)	計	一大学平均(冊)
A(8学部以上)	19	34,037,097	25,111,643	1,256	59,149,996	3,113,158
B(5~7学部)	20	11,889,387	5,373,033	363	17,262,783	863,139
C(2~4学部)	21	9,643,489	5,081,220	7,443	14,732,152	701,531
D(単科大学)	26	7,267,202	2,473,436	1,769	9,742,407	374,708

② 雑誌

3月31日現在 (単位:種)

年度	本館			医学分館			合計
	和	洋	計	和	洋	計	
23	6,514	2,968	9,482	1,224	1,116	2,340	11,822
24	6,519	2,971	9,490	1,227	1,117	2,344	11,834
25	6,522	2,972	9,494	1,233	1,117	2,350	11,844
26	6,531	2,974	9,505	1,243	1,110	2,353	11,858
27	6,539	2,977	9,516	1,236	1,119	2,355	11,871
28	6,541	2,977	9,518	1,243	1,119	2,362	11,880

【参考】所蔵雑誌種類数 (『平成28年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

国立大学	大学	和雑誌(種)	洋雑誌(種)	点字(種)	計	一大学平均(種)
A(8学部以上)	19	630,171	475,444	0	1,105,615	58,190
B(5~7学部)	20	236,405	118,097	0	354,502	17,725
C(2~4学部)	21	163,735	82,186	4	245,925	11,711
D(単科大学)	26	121,269	43,991	2	165,262	6,356

③ 視聴覚資料 3月31日現在 (単位:タイトル)

年度	本館	医学分館	計
23	1,715	2,007	3,722
24	1,529	1,711	3,240
25	1,787	1,713	3,500
26	1,788	1,748	3,536
27	1,788	1,766	3,554
28	1,788	902	2,690

【参考】視聴覚資料所蔵数 (『平成28年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

国立大学	大学数	全所蔵数(タイトル)	1大学平均(タイトル)
A(8学部以上)	19	490,602	25,821

B (5～7学部)	20	115,840	5,792
C (2～4学部)	21	171,319	8,158
D (单科大学)	26	104,762	4,029

II-2 図書受入冊数

単位：冊

年度	本館	医学分館	計
23	17,284	2,341	19,625
24	14,400	2,469	16,869
25	14,897	2,246	17,143
26	14,178	2,273	16,451
27	13,637	2,237	15,874
28	10,018	1,796	11,814

II-3 雑誌受入種類数

単位：種

年度	本館	医学分館	計
23	3,715	690	4,405
24	3,663	694	4,357
25	3,336	475	3,811
26	3,234	487	3,721
27	3,205	473	3,678
28	3,093	478	3,571

Ⅲ 領域別評価

1 教育支援

Ⅲ-1-1 利用対象者数

単位：人

年度	学生	教職員	計
24	7,237	1,965	9,202
25	7,118	2,633	9,751
26	7,081	2,755	9,836
27	7,002	2,704	9,706
28	6,989	2,668	9,657

(出典) 図書館調査 (日本図書館協会)

Ⅲ-1-2 電子書籍導入状況

①購入パッケージ

年度	EBSCOhost Ebook collection	Maruzen e-book Library
24	○	○
25	○	○
26	○	○
27	○	○
28	—	○

②種類数

単位：タイトル

年度	国内	国外	計
24	765	17,251	18,016
25	888	17,268	18,156
26	1,093	17,272	18,365
27	1,658	17,272	18,930
28	1,756	17,272	19,028

【参考】所蔵電子書籍種類数 (『平成 28 年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

単位：タイトル

国立大学	大学数	国内	国外	計	一大学平均		
					国内	国外	計
A (8 学部以上)	19	24,665	478,227	502,892	1,298	25,170	26,468
B (5~7 学部)	20	11,505	248,164	259,669	575	12,408	12,983
C (2~4 学部)	21	11,336	257,243	268,579	540	12,250	12,790
D (単科大学)	26	6,481	103,237	109,718	249	3,971	4,220

Ⅲ-1-3 電子書籍アクセス数

単位：件

年度	EBSCOhost Ebook collection	Maruzene-book Library
24	50	—
25	434	370
26	627	748
27	313	585
28	284	582

Ⅲ-1-4 図書除籍冊数

単位：冊

年度	本館	医学分館	計
23	23,543	0	23,543
24	10,212	1,154	11,366
25	5,636	0	5,636
26	4,159	1,417	5,576
27	830	0	830
28	8,902	3,483	12,385

Ⅲ-1-5 開館時間

①本館

学 期	曜 日	時 間	備 考
授業期 (試験期間含む)	月～金曜日	8:30 ～ 21:10	休館日) 2月,3月,8月の第4木曜日(祝日の場合は開館する) 夏季一斉休業日 年末年始
	土曜日・日曜日・祝日	10:00 ～ 19:00	
休業期 (授業期以外)	月～金曜日	8:30 ～ 20:10	
	土曜日・日曜日・祝日	10:00 ～ 19:00	

②医学分館

学 期	曜 日	早朝(無人)開館	有人開館	備 考
授業期	月～金曜日	6:00 ～ 8:30	8:30 ～ 21:00	(休館日) 休業期の土・日曜日・祝日 年末年始 早朝開館は事前に登録申請した学内所属の教職員および学生のみ利用可能。
	土・日曜日・祝日	閉館	10:30 ～ 18:30	
休業期 (授業期以外)	月～金曜日	6:00 ～ 8:30	8:30 ～ 21:00	
	土・日曜日・祝日	閉館	閉館	

Ⅲ-1-6 年間開館日数等

①本館

年度	開館日数(日)				開館時間数(時間)		
	平日	土曜	休日	計	時間内	時間外	計
23	238	49	61	348	2,023	1,904	3,927
24	234	49	60	343	1,989	1,887	3,876
25	234	49	61	344	1,989	1,896	3,885
26	235	47	62	344	1,997	1,896	3,893
27	215	44	60	319	1,828	1,767	3,595
28	237	46	63	346	2,015	1,864	3,879

(注) H28.4.16～24の期間は、熊本地震の余波を考慮して17:00で閉館。

②医学分館

年度	開館日数(日)				開館時間数(時間)		
	平日	土曜	休日	計	時間内	時間外	計
23	243	47	58	348	2,037	4,535	6,572

24	241	46	60	347	2,019	4,513	6,532
25	241	45	57	343	2,008	4,470	6,478
26	244	45	56	345	2,074	1,784	3,858
27	242	46	61	349	2,048	1,824	3,872
28	240	46	63	349	2,100	2,402	4,502

(注) H25 までと H28 (10 月 11 日以降の平日のみ) は、時間外開館時間は夜間の無人開館時間を含む。

【参考】年間開館日数等（一館平均）（『平成 28 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	開館日数 (日)	授業実施日の平日の 時間外開館 (時間)	授業実施日の土 曜・日曜・祝日開館 (日)	授業実施日でない 日の開館 (日)
A (8 学部以上)	292	1,447	55	96
B (5~7 学部)	330	1,330	69	96
C (2~4 学部)	298	1,093	50	100
D (単科大学)	321	1,198	58	104

Ⅲ-1-7 入館者数

①本館

年 度	開館日数 (日)	時間内 (人)	時間外 (人)	合 計 (人)	1 日平均 (人)
23	348	218,967	101,558	320,525	921
24	343	201,475	96,056	297,531	867
25	344	201,282	102,784	304,066	884
26	344	193,879	102,248	296,127	861
27	319	176,217	93,988	270,205	847
28	346	176,097	88,414	264,511	764

②医学分館

年 度	開館日数 (日)	時間内 (人)	時間外 (人)	合 計 (人)	1 日平均 (人)
23	348	108,725	91,923	200,648	577
24	347	112,351	101,245	213,596	616
25	343	118,477	100,768	219,245	639
26	345	109,863	59,860	169,723	492
27	349	117,796	108,991	226,787	650
28	349	116,527	62,770	179,297	514

Ⅲ-1-8 貸出条件

①本館

種 類	対 象		期 間	冊 数
個人貸出	学内 利用者	学部学生 研究生・科目等履修 生等	図書：2 週間 雑誌：1 週間	図書(雑誌を含む。) 10 冊
		大学院生 教職員・名誉教授等	図書：4 週間 雑誌：1 週間	図書(雑誌を含む。) 10 冊
	学外利用者	図書：2 週間 雑誌：1 週間	図書(雑誌を含む。) 5 冊	
研究室貸出	教員	1 年間	当該予算で購入したもので必要とする冊数	

特別貸出	休業期	学内利用者	休業期間終了日の1週間後まで	個人貸出と同条件
	卒論等	学部学生・大学院生	8週間	図書 5冊
	実習	学部学生	実習期間内	図書 5冊

②医学分館

種 類		対 象	期 間	冊 数
個人貸出		学生・教職員等学内利用者	2週間	図書 5冊
			3日	小池文庫 3冊
3日	雑誌 3冊			
3日	視聴覚資料 3点			
		学外利用者	2週間	図書 3冊 (教養図書に限る)
研究室貸出		教職員	1年間	当該予算で購入したもので必要とする冊数
特別貸出	休業期	学生等	休業期間終了日の翌日まで	図書 3冊

Ⅲ-1-9 館外貸出状況

①本館

年度	貸出者数 (人)				貸出冊数 (冊)			
	学生	教職員	一般	計	学生	教職員	一般	計
23	19,246	1,634	603	21,483	32,535	3,040	1,328	36,903
24	20,601	1,754	622	22,977	34,571	3,127	1,352	39,050
25	23,094	1,567	718	25,379	39,257	2,893	1,693	43,843
26	20,145	1,364	678	22,187	36,996	3,022	1,880	41,898
27	19,994	1,134	651	21,799	36,760	2,444	1,828	41,032
28	14,800	1,109	539	16,448	28,190	2,381	1,294	31,865

②医学分館

年度	貸出者数 (人)				貸出冊数 (冊)			
	学生	教職員	一般	計	学生	教職員	一般	計
23	7,640	1,673	25	9,338	11,611	2,936	44	14,591
24	7,342	1,433	26	8,801	11,525	2,340	42	13,907
25	7,271	1,045	19	8,335	11,415	1,794	47	13,256
26	7,633	1,176	28	8,837	10,690	2,920	49	13,659
27	10,134	1,851	39	12,024	11,683	3,240	41	14,964
28	7,952	1,395	30	9,377	12,089	2,911	116	15,116

【参考】館外貸出冊数（一館平均）（『平成28年度学術情報基盤実態調査結果報告』） 単位：冊

国立大学	教職員	学 生	学外者	計
A (8学部以上)	3,488	22,685	827	27,000
B (5~7学部)	3,043	24,109	1,527	28,679
C (2~4学部)	3,191	28,292	858	32,341
D (単科大学)	3,392	24,224	1,501	29,117

Ⅲ-1-10 オリエンテーション実績（本館）

年度	初級コース		中級コース	
	回数（回）	人数（人）	回数（回）	人数（人）
23	34	983	9	213
24	29	914	8	190
25	31	934	12	241
26	31	860	10	191
27	33	929	12	195
28	26	924	12	213

Ⅲ-1-11 図書館間相互貸借冊数

単位：冊

年度	本館		医学分館	
	借受	貸出	借受	貸出
23	429	180	120	82
24	278	219	46	86
25	293	210	62	88
26	255	143	50	54
27	203	185	16	8
28	139	175	10	10

Ⅲ-1-12 図書館間の文献複写件数

単位：件

年度	本館		医学分館	
	依頼	受付	依頼	受付
23	1,625	624	1,888	1,929
24	1,242	549	1,516	1,783
25	965	352	1,381	1,734
26	1,078	331	1,519	1,435
27	916	384	1,413	1,048
28	696	250	1,364	955

【参考】相互協力件数（一館平均）（『平成28年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	相互貸借		文献複写	
	借受	貸出	依頼	受付
A（8学部以上）	195	196	673	1,002
B（5～7学部）	206	189	1,185	1,083
C（2～4学部）	253	216	969	885
D（単科大学）	187	199	890	687

Ⅲ-1-13 図書館Webページのアクセス数

年度	アクセス数（回）	デバイス別アクセス割合（%）	
		PC	mobile, tablet
24	114,927	92	8
25	121,141	83	17
26	118,974	76	24
27	122,175	71	29
28	99,119	63	37

2 研究支援

Ⅲ-2-1 電子ジャーナル導入状況

①購入パッケージ

年 度	Elsevier Science Direct	Springer LINK	Wiley	Nature	EBSCO
23	○	○	○	○	
24	○	○	○	○	
25	○	○	○	○	
26	○	○	○	○	
27	○	○	○	○	
28	○	○		○	○

②種類数

年度	種類数 (種)
23	5,523
24	11,663
25	11,642
26	11,884
27	12,045
28	10,704

【参考】所蔵電子ジャーナル種類数 (『平成 28 年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

国立大学	大学数	電子ジャーナル (種)	一大学平均 (種)
A (8 学部以上)	19	382,249	20,118
B (5~7 学部)	20	183,100	9,155
C (2~4 学部)	21	157,578	7,504
D (単科大学)	26	158,241	6,086

Ⅲ-2-2 電子ジャーナルアクセス数

年 度	Elsevier Science Direct	Springer LINK	Wiley	Nature	EBSCO
23	109,067	20,850	28,412	7,130	
24	105,719	19,695	26,900	4,799	
25	91,206	19,398	26,003	3,903	
26	94,272	16,867	28,560	2,994	
27	100,463	17,343	28,854	2,392	
28	110,878	18,583		2,786	2,092

Ⅲ-2-3 文献等データベースサービス

国 内		国 外	
名称	利用数 (件)	名称	利用数 (件)
聞蔵Ⅱビジュアル	730	SciFinder Academic	27,944
ヨミダス歴史館	453	Scopus	33,922
日経テレコン 21	147,244	Ovid	15,826
ジャパンナレッジ・プラス N	4,314	CINAHL	1,344
医中誌 Web	64,202	Clinical Evidence	81
CiNii *	80,003	UpToDate	2,641
日経 BP 記事検索サービス*	5,623		

* 本文では電子ジャーナル種として集計しているもの

Ⅲ-2-4 文献等データベースのトライアル及び説明会開催状況

年度	トライアル	説明会
22	Scopus	Scopus、Scifinder Academic
23	Scopus、メディカルオンライン	Scifinder Academic
24	西日本新聞	Scopus オンライン講習会 EBSCO host オンライン講習会 Scifinder Academic
25	ebrary	Science Direct オンライン講習会 Scopus オンライン講習会 EBSCO host オンライン講習会 Scifinder Academic
26	ICM(世界助産師連盟データベース)	Scopus, SciFinder Academic Scopus オンライン講習会 EBSCO host オンライン講習会
27	実施せず	SciFinder Academic Scopus オンライン講習会 EBSCO host オンライン講習会
28	実施せず	SciFinder Academic 日経テレコン

【参考】図書館資料費（『平成 28 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

（平成 27 年度実績：一大学平均）

単位：千円

国立大学	大学数	図書	雑誌	電子ジャーナル	電子書籍	データベース	その他	計
A (8 学部以上)	19	141,711	130,633	385,062	12,683	62,471	9,161	741,721
B (5～7 学部)	20	26,807	32,155	123,807	3,758	17,686	1,949	206,162
C (2～4 学部)	21	28,743	18,649	66,120	1,904	13,810	1,827	131,053
D (単科大学)	26	12,526	8,709	9,571	1,426	7,317	2,812	62,361

Ⅲ-2-5 佐賀大学機関リポジトリ登録数及び閲覧数(平成 28 年度)

単位：件

コンテンツの種類	登録数		閲覧数	
	一次情報	二次情報	アクセス数	ダウンロード数
紀要論文	3,055	7,207	376,792	324,216
博士論文	272	1,771	99,224	88,621
雑誌論文 他	496	1,919	19,259	12,585
合計	3,823	10,897	495,275	425,422

【参考】機関リポジトリコンテンツ数（『平成 28 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

（平成 27 年度実績：国立大学 B (5～7 学部) 平均）

単位：件

コンテンツの種類	一次情報	二次情報	アクセス数	ダウンロード数
学術雑誌論文	859	3,864		
学位論文	350	778		
紀要論文	3,247	1,352		
会議発表論文	199	4,370		
会議発表資料	54	4		
図書	81	273		
テクニカルレポート	22	13		

研究報告書	398	135		
一般雑誌記事	35	343		
プレプリント	5	2		
教材	6	1		
講義	0	0		
データ・データベース	2	0		
ソフトウェア	0	0		
その他	783	4,536		
計	6,041	15,671	337,978	448,940

3 社会貢献

Ⅲ-3-1 市民への貸出状況

年度	本館		医学分館	
	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)
23	603	1,328	25	44
24	622	1,352	26	42
25	718	1,693	19	47
26	678	1,880	28	49
27	651	1,828	39	41
28	539	1,294	30	38

Ⅲ-3-2 図書館月間講演会

年度	演題	講師
23	現代陶芸の特質(シンプル・シャープ・クリアー・ヴァイタリティ) —日展女流陶芸家・寺崎康子の場合—	吉永陽三 (元佐賀県立博物館・美術館副館長)
	有田・唐津焼と私の作品	田中右紀 (佐賀大学文化教育学部准教授)
24	徐福2200年ロマン—徐福の見た夢—	澤野 隆 (NPO法人佐賀県徐福会理事長)
	徐福ラボにおける食品機能性に関する研究—佐賀県産品の可能性—	永尾晃治 (佐賀大学農学部准教授)
25	ビブリオバトルの勧め —社会で役立つ“プレゼン能力”を学ぼう—	中山功一 (佐賀大学工学系研究科准教授)
26	有田磁器の創始と発展 —400年の歴史をたどる—	大橋康二 (元佐賀県立九州陶磁文化館館長)
27	日本電信の祖 石丸安世	多久島澄子 (幕末佐賀研究会会員)
	佐賀藩と電信機	長野 暹 (佐賀大学名誉教授)
28	大学発オリジナル清酒「悠々知酔」を学生が考え、そして醸す!	小林元太 (佐賀大学農学部教授)
	国産初のグレープフルーツ‘さがんルビー’の育成と産地形成	駒井史訓 (佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センター教授)
	大学の技術開発を活用した農業ビジネス展開について	永原辰哉 (株式会社農研堂代表取締役)

Ⅲ-3-3 図書館月間展示会

年度	展示名	展示内容
23	(展示会実施せず)	
24	徐福2200年ロマン—徐福の見た夢—	講演会「徐福2200年ロマン—徐福の見た夢—」に合わせ、徐福長寿館所蔵の資料・書籍を展示した。
25	ビブリオバトルお奨め本	ビブリオバトル首都決戦の大学予選会での発表本及び図書館開催のミニビブリオバトルのお奨め本などを展示した。
26	有田焼関連図書	講演会「有田磁器の創始と発展 —400年の歴史をたどる—」に合わせ、書籍を展示した。
27	幕末佐賀藩の科学技術に関する資料	講演会「日本電信の祖 石丸安世」及び「佐賀藩と電信機」に合わせ、資料・書籍を展示した。

28	佐賀大学生まれの食品に関する資料	佐賀大学で研究・開発した食品から生まれた製品、関連資料等を展示した。
----	------------------	------------------------------------

Ⅲ-3-4 附属図書館所蔵コレクション

	コレクション名	内 容
地域資料コレクション	小城鍋島文庫	佐賀鍋島の支藩、小城の鍋島家に伝えられた貴重な図書・文書で、当主鍋島直浩氏のご厚意と西島製作所原田龍平氏のご配慮により、昭和35年に寄贈され、昭和38年には小城町教育委員会から小城鍋島家旧蔵漢籍が寄贈されたもので、1万点を超える国書、漢籍、歴史史料からなる。
	唐津藩庄屋文書	唐津藩の庄屋史料を中心に地方（じかた）文書を含む約1,000点の近世中・後期から明治にかけての庄屋史料である。
	深江文書	深江家に伝わる美濃派俳諧の資料で、深江汨央氏より平成5年に寄贈されたものであり、江戸中期から明治初期に佐賀で編まれた49点の俳書である。
	江藤新平関係文書	明治維新の政治家、江藤新平に関する資料をマイクロフィルム化したもので、佐賀県立図書館に所蔵されている1,400点余の資料と、江藤家に秘蔵されていた未公開資料130点を含んでいる。明治初期の政治・法制成立課程の研究や江藤研究の貴重な資料である。
	佐賀地方裁判所資料	佐賀地方裁判所より、平成11年に寄贈を受けたもので、明治初期から昭和初期に至るまでの裁判制度に関する資料であり、佐賀地方に限定されているとはいえ、明治初期から昭和初期までの地方における裁判の全体像を知ることができる貴重な資料である。
	市場直次郎コレクション	佐賀や北九州の近世文学・民俗学研究で知られた故市場直次郎氏が蒐集した、扇面・色紙・和書・掛軸等1,900点余のコレクションを3期にわたって購入した。コレクション中、近世の文人が描いた書画の扇面は502点にも及び、全国でも他に例がないものである。 (第1期分のみ文部科学省大型コレクション経費 平成13年度採択)
	洋学資料コレクション	我が国洋学発達史上、学術的価値のある資料である。 「和蘭字彙」、「草木花実写真図」、「西遊旅譚」、「蘭学選」、「和蘭産物考」、「蘭学階梯」、「和蘭薬鏡」 (岡本基金-教育研究助成奨学寄附金)
	大内文庫	平成15年9月に亡くなられた、鹿児島大学名誉教授・文学博士、大内初夫氏が収集された俳諧書類で、江戸時代(元禄期)から明治中期にかけての俳諧書298点445冊、俳諧書複製本23点、軸物18点、器財(文台)1点を内容とする。 (岡本基金-教育研究助成奨学寄附金)
佐賀新聞DVD	明治17年の創刊号から平成19年までの記事を図書館内の専用パソコンで見ることができ、日付検索の機能を持ち、紙面全体や個別の記事を表示、印刷することができる。 (学長経費-予備費)	
研究用コレクション	東寺百合文書	東京大学史料編纂所が京都教王護国寺(通称東寺)旧蔵文書の影写本をマイクロフィルム化したもの。文書には、鎌倉・室町時代の東寺関係諸記録約1,000点を含み、東寺の寺院経営や寺院の荘園に関する寺院経済関係の記録が豊富である。 (文部科学省大型コレクション経費 昭和56年度採択)
	バイルシュタイン有機化学全書	Beilsteins Handbuch der Organischen Chemie. 炭素化合物の物理的、化学的諸特性に関する百科事典 (文部科学省大型コレクション経費 昭和62年度採択)
	国立国会図書館所蔵 明治期産業翻訳書集成	明治期のお雇い外国人官僚技術者、知識人の外国事情、学術研究書などの翻訳と報告をマイクロフィルム化したもの。万国博覧会編、農業編、工業編、産業史編に分かれている。 (文部科学省大型コレクション経費 平成元年度採択)
	1990世界農業センサス農業集落カード	農業の国勢調査ともいべき農林業センサスの調査結果の一つで、農村地域の最小単位である全国約13万4千の農業集落について調査結果を整理統合した資料。 (文部科学省大型コレクション経費 平成元年度採択)

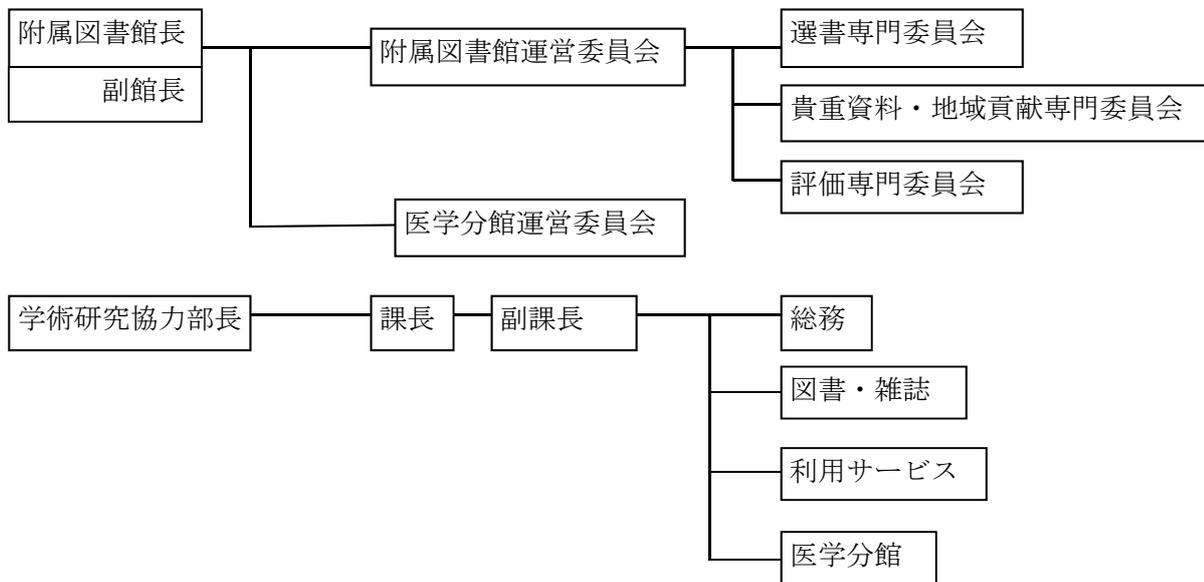
Ⅲ-3-5 貴重資料の利用

年度	展 示 名	展 示 内 容
23	①小城の医学と地域医療 ②幕末期海軍の提督たち - 中牟田倉之助と高杉晋作 ③汽笛一声 鉄道はじまりものがたり ④噴火 地震 台風 病 史料に見る江戸時代の災害・災厄	①小城鍋島文庫の中から「元茂公御年譜」ほか10点 ②小城鍋島文庫の中から「上海談聞書」 ③小城鍋島文庫の中から「遠西奇器述」 ④小城鍋島文庫の中から「御状方日記」「日記目録」
24	①久米邦武と能楽展 ②書聖・中林梧竹不朽の書	①小城鍋島文庫の中から「景清」 ②小城鍋島文庫の中から「東坡居士詩集」
25	①鉄道を夢みた男たち ②小城藩と和歌-直能公自筆『岡花和歌』の里帰り- ③九州の蘭学 武雄の蘭学 ④市民の歴史研究事始め-自由民権カレッジ一期生の成果- ⑤儒家三代～古賀精里・穀堂・侗庵・謹一郎～	①小城鍋島文庫から「遠西奇器述」 ②小城鍋島文庫から「八重一重」ほか35点, 市場直次郎コレクションから「今泉蟹守和歌」 ③小城鍋島文庫から「遠西奇器述」 ④市場直次郎コレクションの画像データから「小池池旭 紅梅図」 ⑤小城鍋島文庫から「津島日記」
26	①図録「小城城下と牛津宿」出版 ②小城城下と牛津宿-小城藩政の展開と人びとの経済活動 ③実録『火城』伝～幕末佐賀のテクノクラート～ ④医学のあけぼのから先端医療まで	①小城鍋島文庫から「直能公御年譜6」ほか26点 ②小城鍋島文庫から「直能公御年譜6」ほか8点 ③小城鍋島文庫から「遠西奇器述」 ④小城鍋島文庫から「和漢三才図会」
27	①小城鍋島藩と島原の乱 ②小城祇園祭-千葉・鍋島から現代へ ③花鳥風月に遊ぶ-近世の絵師と歌人	①小城鍋島文庫から「元茂公御年譜」ほか6点 ②小城鍋島文庫から「小城祇園祭旧記」ほか12点, 市場直次郎コレクションから「和歌(今泉蟹守)」 ③市場直次郎コレクションから「扇面(与謝蕪村)」ほか30点
28	①「幕末維新期の小城」(平成28年7月15日(金)～8月10日(水) 於: 佐賀大学美術館、佐賀大学菊楠シュライバー館) ②「花守と介次郎: 明治を担った小城の人びと」(平成28年10月22日(土)～12月4日(日) 於: 小城市立歴史資料館)	①小城鍋島文庫から「小城藩日記 元治元年」ほか7点 ②市場直次郎コレクションから「楠公像」、小城鍋島文庫から「柴田介次郎上海談聞書」「聞書」「村崎卜齋覚書他」「小城藩日記」「旧約聖書・新約聖書」、旧制佐高図書から「開国五十年史」

4 組織運営

Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図

平成 28 年 4 月



Ⅲ-4-2 附属図書館職員数

5 月 1 日現在（単位：人）

年度	本 館			医学分館			合 計		
	常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計
23	9(5)	9(3)	18(8)	2(2)	6(4)	8(6)	11(7)	15(7)	26(14)
24	10(7)	9(3)	19(10)	2(2)	5(3)	7(5)	12(9)	14(6)	26(15)
25	10(7)	9(3)	19(10)	2(2)	6(4)	8(6)	12(9)	15(7)	27(16)
26	10(7)	10(4)	20(11)	2(2)	5(3)	7(5)	12(9)	15(7)	27(16)
27	9(6)	10(5)	19(11)	2(2)	3(2)	5(4)	11(8)	13(7)	24(15)
28	9(5)	10(6)	19(11)	2(2)	3(1)	5(3)	11(7)	13(7)	24(14)

(注) () 書は司書数で内数

【参考】図書館職員数（『平成 28 年度学術情報基盤実態調査結果報告』より）

単位：人

国立大学	大学数	総人数			一大学平均人員		
		専任	臨時	計	専任	臨時	計
A (8学部以上)	19	930	1,097	2,027	49	58	107
B (5～7学部)	20	256	395	651	13	20	33
C (2～4学部)	21	244	378	622	12	18	30
D (単科大学)	26	187	217	404	7	9	16

Ⅲ-4-3 職員研修状況

年 度	研 修 名	場 所	人数(人)
23	学術情報セミナー	福岡市	4
	ILL システム講習会	福岡市	1
	福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会目録講習会	北九州市	2
	目録システム講習会（図書コース）	福岡市	1
	機関リポジトリ新任担当者研修	広島市	1
	九州地区国立大学法人等テーマ別研修	宮崎市	2

	中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー	福岡市	1
	九州地区医学図書館員セミナー	福岡市	1
	大学図書館職員短期研修	東京都	1
	佐賀大学フォローアップ研修	佐賀市	1
	ILL システム講習会	福岡市	4
24	ILL システム講習会	福岡市	1
	目録システム地域講習会	福岡市	1
	大学図書館職員短期研修	京都市	1
	九州地区国立大学法人等テーマ別研修会	福岡市	2
	機関リポジトリ—新任担当者研修	岡山市	1
	北部地区研究会目録講習会	北九州市	1
	学術情報セミナー	福岡市	4
	エルゼビア 図書館セミナー	福岡市	2
	九州地区医学図書館員セミナー	宮崎市	1
	図書館総合展	横浜市	1
25	学術情報セミナー	福岡市	1
	学術情報ウェブサービス担当者研修	福岡市	1
	Library Lover's キャンペーン ワーキング会議	福岡市	1
	北部地区研究会目録講習会	北九州市	1
	法人等係長研修	福岡市	1
	文化庁著作権講習会	京都市	1
	九州地区国立大学法人等テーマ別研修会	福岡市	2
	国立大会計事務講習	佐賀市	1
	佐賀大学係長研修	佐賀市	1
	佐賀大学幹部職員(副課長)研修	佐賀市	1
	佐賀大学接遇・マナー研修	佐賀市	2
	佐賀大学中堅職員ステップアップ研修	佐賀市	2
26	目録システム地域講演会(雑誌コース)	山口市	2
	九州地区事務情報化推進要員スキルアップ研修	福岡市	1
	大学図書館職員研修会	福岡市	2
	九州地区医学図書館員セミナー	福岡市	1
	佐賀大学情報化要員養成研修(EXCEL)	佐賀市	4
	佐賀大学係長ステップアップ研修	佐賀市	2
	佐賀大学接遇・苦情クレーム対応研修	佐賀市	5
27	大学図書館職員長期研修会	筑波市	1
	学術情報セミナーIN 福岡	福岡市	1
	北部地区研究会目録講習会	北九州市	1
	中国・四国・九州地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー	鹿児島市	1
	九州地区国立大学法人等テーマ別研修会	長崎市	1
	九州地区国立学校会計事務研修	熊本市	1
	九州地区医学図書館員セミナー	沖縄県中頭郡	1
	九州地区国立大学図書館協会館員館職員研修 WG	福岡市	1
	佐賀大学係長研修	佐賀市	1
	佐賀大学簿記研修	佐賀市	3
	佐賀大学評価者研修及び評価制度研修	佐賀市	1
佐賀大学情報システム統一研修	佐賀市	2	

28	佐賀県公共図書館職員研修会（第1回）	佐賀市	1
	佐賀大学情報システム統一研修（7月～9月）	佐賀市	6
	機関リポジトリ新任担当者研修	長崎市	1
	九州地区国立大学法人等係長研修	宮崎市	1
	佐賀大学係長ステップアップ研修	佐賀市	1
	大学図書館職員短期研修会	京都市	1
	佐賀大学情報システム統一研修（10月～12月）	佐賀市	2
	九州地区国立学校会計事務研修	大分市	1
	九州地区国立大学図書館協会館員館職員研修WG	福岡市	1
	国立大学図書館協会シンポジウム	福岡市	2
	佐賀大学接遇・マナー研修	佐賀市	1

Ⅲ-4-4 図書館経費

①本館予算

単位：千円

年度	図書館維持費	図書購入費		計
		図書購入費	学長経費等 (電子ジャーナル経費)	
23	41,726	27,000	68,339	137,065
24	40,661	25,790	74,726	141,177
25	40,857	20,582	75,000	136,439
26	37,247	20,379	75,000	132,626
27	36,516	20,177	75,000	131,693
28	35,342	15,025	75,000	125,367

(注1) 平成23年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス18,339千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として21,000千円プラス6,000千円(その他補助金間接経費)を計上した。

(注2) 平成24年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス24,726千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として20,790千円プラス5,000千円(その他補助金間接経費)を計上した。

(注3) 平成25年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス25,000千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として20,582千円を計上した。

(注4) 平成26年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス25,000千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として20,379千円を計上した。

(注5) 平成27年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス25,000千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として20,177千円を計上した。

(注6) 平成28年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス25,000千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として15,025千円を計上した。

②本館決算

単位：千円

年度	図書館維持費	図書購入費		計
		図書購入費	学長経費等 (電子ジャーナル経費)	
23	39,974	27,000	68,340	135,314
24	39,275	25,983	74,726	139,984

25	40,897	20,582	78,591	140,070
26	40,272	20,379	85,665	146,316
27	33,723	20,102	84,217	138,042
28	35,346	15,024	71,568	121,938

③医学分館予算

単位：千円

年度	図書館維持費	図書購入費		計
		図書購入費	医学部経費	
23	19,277	6,300	34,151	59,728
24	19,273	6,237	33,743	59,253
25	16,274	7,374	34,041	57,689
26	16,178	7,301	30,168	53,647
27	15,378	7,226	33,987	56,591
28	15,725	6,000	57,210	78,935

④医学分館決算

単位：千円

年度	図書館維持費	図書購入費	計
23	19,026	40,378	59,404
24	19,301	40,277	59,578
25	15,435	42,405	57,840
26	14,398	47,762	62,160
27	13,255	52,614	65,869
28	16,991	50,757	67,748

※医学分館の予算・決算は、附属図書館の決算書の医学分館及び医学部経費の合計
平成28年度では、図書購入費を一部設備品購入に充当した。

Ⅲ-4-5

①図書館資料費（平成28年度）

単位：千円

区分	本館	分館	合計
図書	28,622	11,553	40,175
雑誌	20,716	29,547	50,263
電子ジャーナル	76,304	5,616	81,920
電子書籍	112	1,892	2,004
データベース	17,684	2,113	19,797
その他	6	36	42
合計	143,444	50,757	194,201

【参考】図書館資料費（『平成28年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

（平成27年度実績：一大学平均）

単位：千円

国立大学	大学数	図書	雑誌	電子ジャーナル	電子書籍	データベース	その他	計
A（8学部以上）	19	141,711	130,633	385,062	12,683	62,471	9,161	741,721
B（5～7学部）	20	26,807	32,155	123,807	3,758	17,686	1,949	206,162
C（2～4学部）	21	28,743	18,649	66,120	1,904	13,810	1,827	131,053
D（単科大学）	26	12,526	8,709	29,571	1,426	7,317	2,812	62,361

②電子資料経費

単位：千円

年度	電子ジャーナル経費	電子書籍経費
23	74,020	—
24	95,014	3,300

25	97,586	3,505
26	108,823	3,924
27	114,043	6,196
28	101,354	1,870

5 施設・設備

Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力（平成29年5月1日現在）

①面積

単位：㎡

	サービススペース					管理スペース				合計
	閲覧	視聴覚	情報端末	その他	計	書庫	事務	その他	計	
本館	750	104	25	1,167	2,046	1,059	417	2,596	4,072	6,118
分館	495	56	36	203	790	583	186	210	979	1,769
合計	1,245	160	61	1,370	2,836	1,642	603	2,806	5,051	7,887

②閲覧座席数

単位：席

	1階	2階	3階	合計
本館	275	97	255	627
分館	88	104	—	192
合計	363	201	255	819

③書架収容力

	棚板延長（㎡）	収容可能冊数（冊）	書架配架冊数（冊）	収蔵率（％）
本館	16,680	463,333	446,150	96
分館	3,889	108,028	103,706	96
合計	20,569	571,361	549,856	96

【参考】面積・閲覧座席数（平成28年度学術情報基盤実態調査）

国立大学	大学数	総床面（㎡）	1大学床面積（㎡）	閲覧座席数（席）	1大学座席数（席）
A（8学部以上）	19	543,784	28,620	40,866	2,150
B（5～7学部）	20	186,112	9,306	17,150	858
C（2～4学部）	21	155,941	7,426	12,718	606
D（単科大学）	26	106,589	4,100	8,904	342

【参考】書架収容力（平成28年度学術情報基盤実態調査）

国立大学	大学数	棚板延長（m）	1大学棚板延長（m）	収容可能冊数（冊）	1大学当収納可能冊数（冊）
A（8学部以上）	19	2,059,355	108,387	57,204,303	3,010,753
B（5～7学部）	20	597,119	29,856	16,586,641	829,332
C（2～4学部）	21	539,067	25,670	14,974,081	713,051
D（単科大学）	26	380,905	14,650	10,580,695	406,950

Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数（平成29年5月1日現在）

単位：台

	据置き	貸出し	計
本館	75	0	75
医学分館	62	2	64
計	137	2	139

【参考】図書館利用者用端末台数（『平成28年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	据置き		貸出し		合計	
		台数（台）	1大学平均（台）	台数（台）	1大学平均（台）	台数（台）	1大学平均（台）
A（8学部以上）	19	3,298	173	472	25	3,770	198

B (5～7 学部)	20	1,554	78	287	14	1,841	92
C (2～4 学部)	21	1,596	76	384	18	1,980	94
D (単科大学)	26	696	27	224	8	920	35

Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

	面積 (㎡)	運営体制 (人)			
		職員 (図書館)	職員 (図書館以外)	教員	学生スタッフ
本館	750	2	0	0	0
医学分館	36	2	0	0	0
計	786	4	0	0	0

【参考】アクティブ・ラーニング・スペースについて (『平成 28 年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

国立大学	大学数	設置大学		設置館		面積 (㎡)	
		大学数	設置率 (%)	館数	設置率 (%)	合計	1 大学平均
A (8 学部以上)	19	19	100.0	46	26.6	24,158	1,271
B (5～7 学部)	20	19	95.0	29	63.0	14,779	739
C (2～4 学部)	21	19	90.5	26	68.4	9,298	443
D (単科大学)	26	22	84.6	23	74.2	5,845	225

国立大学	大学数	設置大学数	運営体制 (人)					
			職員 (図書館)	職員 (図書館以外)	教員	学生スタッフ	1 大学平均職員 (図書館)	1 大学平均左記以外
A (8 学部以上)	19	19	253	15	24	221	13	14
B (5～7 学部)	20	19	118	6	26	58	6	5
C (2～4 学部)	21	19	101	6	19	95	5	6
D (単科大学)	26	22	101	6	4	30	4	2

Ⅲ-5-4 グループ学習室の設備

①本館

	座席数	設備
グループ学習室 1	16 席 (予備 3 席)	プロジェクター、スクリーン、大型ディスプレイ ホワイトボード
グループ学習室 2	12 席 (予備 8 席)	
グループ学習室 3	24 席	
グループ学習室 4	18 席	大型テレビ (ディスプレイとして使用可) BD/DVD/VHS プレイヤー、ホワイトボード
グループ学習室 5	22 席	大型ディスプレイ、ホワイトボード

②医学分館

	座席数	設備
ビデオスライド室 1	12 席	プロジェクター、プロジェクター用スクリーン、テレビモニター 電気顕微鏡、DVD・VHS プレイヤー、ホワイトボード
ビデオスライド室 2	4 席	テレビモニター、電気顕微鏡、DVD・VHS プレイヤー ホワイトボード

Ⅲ-5-5 各室使用状況 (本館)

年度	グループ学習室予約 (回)	閲覧個室 (人)
23	1,420	289
24	1,951	334

25	2,214	613
26	2,112	611
27	1,751	225
28	1,626	360

Ⅲ-5-6 グループ学習スペース及びグループ学習室5 入室状況（本館）

年度	グループ学習スペース入室者数（人）	グループ学習室5入室者数
27	76,814 *	19,501
28	66,130 *	28,995

*参考値（計測に一部誤りがあるため補正した数値）

Ⅲ-5-7 会議室利用状況（本館）

年度	回数（回）	時間（時間）
23	126	510
24	96	387
25	129	668
26	138	630
27	134	516
28	60	272

佐賀大学附属図書館自己点検評価報告書（平成28年度）検証票

項番	評価項目	評価	評価についてのコメント
1	教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 十分よい <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	学生用資料については、附属図書館選書専門委員会や学生希望図書制度を中心に選書システムが確立しており、加えてキャリアセンター、教育学部、国際交流推進センターとそれぞれ連携した資料整備も進められている。図書館サポーター学生の活動の組織化、情報リテラシー教育支援の実施、電子書籍の導入等を通しての利便性や教育効果の向上も図られている。ラーニングコモンズへの改修後も、サインや利用規程等の継続的な整備が進められている。とくに教員と連携した電子書籍整備は評価される。
2	研究支援	<input type="checkbox"/> 十分よい <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	図書館運営委員会や検討専門委員会での議論を通して、厳しい財政状況の中での電子ジャーナル経費やデータベースの経費削減を含めた効率的な整備に努めており、新たに電子ジャーナル等検討専門委員会を設置し、今後の計画的な購入方針も策定しようとしている。日常的には機関リポジトリへの登録促進のための周知が行われている。
3	社会貢献	<input type="checkbox"/> 十分よい <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	一般市民への閲覧・貸し出しサービスは、年齢や居住地の制限なく行われており、セミナー、講演会、展示会を通じた公開講座も地域学習の場として活かされている。所蔵コレクションの電子化による公開は社会貢献として大きい。一般市民による利用の数的な増大は見込みにくい状況にあるが、利用者による簡単なアンケート結果でもあれば、社会貢献の質は測定でき、今後の企画にとって参考になるであろう。
4	組織運営	<input checked="" type="checkbox"/> 十分よい <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	本館・分館の運営委員会を中心に3つの常置専門委員会が機能しており、堅実な組織運営が図られている。限られた人員環境のなか、業務の効率化や書架狭域化対応への業務の削減も図られている。経費削減についても全般にわたって地道な努力が払われている。職員研修の機会を非常勤職員へ拡大し、県内図書館への研修を奨励している点は評価される。
5	施設・設備	<input checked="" type="checkbox"/> 十分よい <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	アクティブ・ラーニング・スペースやグループ学習室の整備に加えて、閲覧スペースをより利用しやすくする工夫が重ねられている。また、安全対策としての防犯カメラの増設やバリアフリー化への対応も限られた予算のなかで計画的に進められている。図書館脱出ゲームによって図書館の施設・設備を広報する試みは興味深い。
6	評価手法	<input type="checkbox"/> 十分よい <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	国立大学の図書館においては、財政状況の厳しさ、人的資源の乏しさ、施設の老朽化への対応という課題は不可避であるが、これらの課題に堅実に取り組んでいる状況が自己評価されている。できれば、利用（使用）者のアンケート（コメント）の一部であっても提示されれば、自己評価の裏付けになり、外部の者にもわかりやすくなる。また、さまざまな数値の年度別変化については、できれば図示（グラフ化）されるほうが、実績や課題が見えやすくなると考えられる。

平成30年3月6日

検証者所属

宮崎大学

検証者氏名

兒玉 修

